

横浜市ESD推進コンソーシアム交流報告会（教職員の部）

1 目的

- ・各校の教育活動を第4期柱2施策2の視点で振り返り、実際の子どもの声を基に、子どもたちが望む学びや学校について理解を深める。
- ・「こどもの意見表明」や「アンラーン（unlearn：学びほぐし）」の視点から持続可能な社会の創り手育成（ESD）について考える価値を認識するとともに、子どもたちが望む学びや学校をどのように設計していけるかについて考えを深める。
- ・参会者同士の意見交流を通して、各学校のESDの充実につなげる。

2 テーマ

「ヨコハマ_ラーニング・コンパス」～子どもたちが望む未来へ教育を進める～

3 日時

令和7年1月25日（土） 13：30～16：45

4 会場

横浜市技能文化会館 8階 802 大研修室

5 参加者

ESD推進校の教職員をはじめとする市立学校教職員、ESD関係者、企業等関係者 約50人



6 時程及び内容

時刻	内容
13：15	受付開始
13：30	【開会】  
13：40	【ともに未来を創るワークショップ】 午前で開催した「児童・生徒の部」のアンケート結果や成果物を分析することを通して、子どもたちが望む学びや学校について理解を深めた。   
14：25	【休憩】

14:35

【講演と協議】

「これからのESDをこどもの意見表明とアンラーンから考える」

講師 国立社会保障・人口問題研究所

主任研究官 佐々木 織恵 氏



講演の内容をもとにグループ協議をすることを通して、「こどもの意見表明」や「アンラーン」の視点からESDについて考える価値を認識するとともに、子どもたちが望む学びや学校をどのように実現していけるかについて考えを深めた。

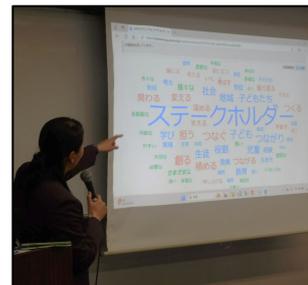
15:50

【休憩】

16:00

【振り返り】

○意見交流「ともに未来をつくるために、あなたが考える“学校の役割”とは」



○講評



国立社会保障・人口問題研究所
佐々木 織恵 氏



横浜市教育委員会 教育委員
森 祐美子 氏

○感想交流



16:35

【閉会】

7 まとめ

(1) 交流報告会事前アンケート結果

冒頭のアンケート結果によると、「地域や社会の課題を自分たちで解決できると思うか」という問いについて、児童・生徒の部（子ども）は肯定的な回答が約 90%であったのに対し、教職員の部（大人）の回答はその割合が 60%台にとどまっていた（図1）。大人と子どもの中に認識の差があることを共有することから、交流報告会を始めた。

また、同アンケート内の「どのような学びや学校を、子どもは望んでいると思うか」という問いに関しては図2のような結果が得られ、それ以外にも、自己実現と選択の自由、安心・安全な環境、社会とのつながり、協力と対話、未来への希望についての回答が寄せられた。参加者は「自分たちがやりたいことを自分事として自己決定して学ぶこと」「安心して自分らしさを発揮できる学校」を子どもは望んでいると予想していた。

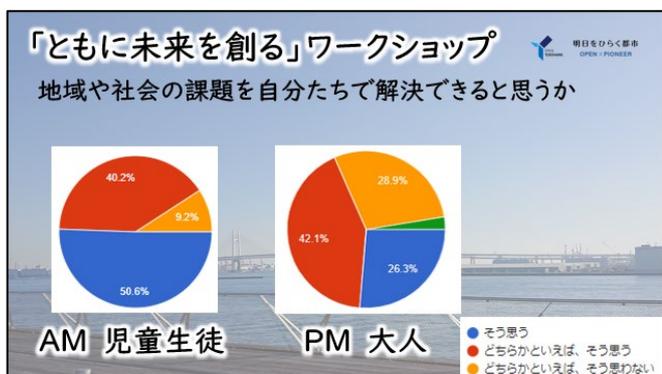


図1 「地域や社会の課題を自分たちで解決できると思うか」

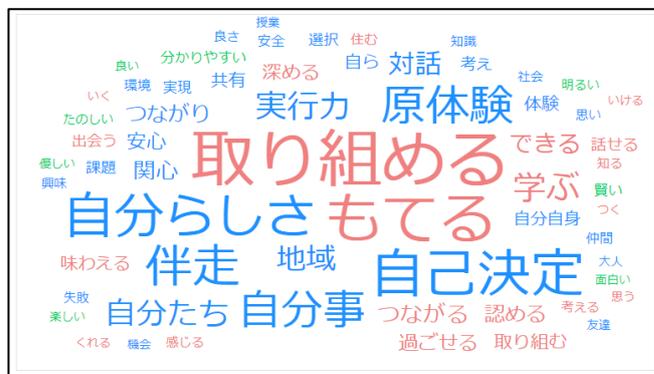


図2 : テキストマイニング (実施後に再分析)
「どのような学びや学校を、子どもは望んでいると思うか」

(2) 「こどもの意見表明」や「アンラーン」の視点でのグループ協議

講演の内容をもとにしたグループ協議では、次のような発言があった。

- 学校にずっとあるもの、これまで当たり前やってきたことを見直して、柔軟に考えることが大切である。
- 教師として、教えなきゃいけないことは教えなきゃいけない。だからこそ、大人の「当たり前」を押し付けないようにしたい。
- 先生は、子どもの解決する道標を固定しがち。でも、子どもに任せてみれば、子どもなりに学びを得ている。ただ、子どもにつける力との兼ね合いが大事。
- 心の持ちようについての変容がないと、新たな価値を創出していけない。
- アンラーンって難しい。だからこそ、大人が素直に考えてみることや子どもの話を聞いてみる姿勢を大切にしたい。
- 「一回積み上げたものをくずすイメージ」を大切にしたい。きっと、正解が一つということはないから。時代が変わっているのに、同じことをしていても衰退するだけだからこそ、アンラーンが大切だと思う。
- 体験や経験を通して感じた子どもの「気づき」は、「伝えたい」という欲求につながっていくのではないかと。学校も企業も外部人材とのつながりを通して、互いの課題を解決していくことができるとよい。

